

第2回市民ふれあいトーク「子育て支援」会議録

要約版

平成20年10月25日 10:00～

ライフパーク倉敷中ホール

＝市長あいさつ＝

第2回目のふれあいトークでは、子育て支援について皆さんのお話をお聞きしたいと思います。隣では託児もご協力いただきまして、皆さんのご協力で成り立っております。ありがとうございます。

倉敷市では、子育て支援について特に力を入れていきたいと思っています。子育て支援には色々な段階があると思いますが、まずは小学校6年生までの子育て支援が一番大切ではないかと考えています。

子育ての各段階に支援をすることが必要だと思っています。まずは赤ちゃんがお母さんのおなかの中にいる頃からということで、これまで5回だった妊婦検診の公費負担を14回までとさせていただきます。これはお母さんの健康面と、核家族とか地域とのつながりが薄いお母さんがたが、子育て支援について相談をできる人が少ないのではないかと、少しでも同じ環境にいるお母さん方が多いところに、つまりそれは産婦人科であったり助産院であったりに行っていただいて、友達を作ることが出来ないだろうか、そういうことも含めて妊婦検診の無料化をすすめていただきました。特に、今回14回までということ、助産院も11回まで無料券を使えるようにさせていただいたことが非常に特徴的なことで、全国的にも先進的なことだと思います。

保育園・幼稚園については、環境整備をしっかりとすすめていきたいと思っています。保育園では待機児童が、この10月1日で72人となっています。特に茶屋町地区、大高・葦高地区で子どもさんの数が多いということで、その部分について保育園を少し増設していきたいと思っています。幼稚園につきましても、特に教育の観点から、園の開放、小学校入学前の段階の幼児教育の大切な部分ということで先生方と連携をとって一緒に頑張っているところです。

そして、小学校に入りまして、まず一番大切なところだと思います小学校1年生にどうやって学校に慣れてもらうか。ひとつ注目しましたのが、1年生の30人以上の学級で、先生が2人ついでくださる小1グットスタート支援事業です。これまで県が半年間お金を出してくださってありました。それを丸々1年間に延長するため、今年から残り半分を市が持つことになっていました。あと3か月分を県に延長していただけることになりましたが、県の今の状況では、財政負担が出来ないかもしれないということなので、その部分の市の負担が増えるかもしれませんが、それについては丸々1年間しっかりやって行きたいと思っています。

そして、もうひとつ大きなものは児童クラブです。今、基本的には3年生までの受入ということになっていて、市内63学校区で62の児童クラブをおこなっていただいております。大規模児童クラブについては、71人以上だと国の補助がなくなるということなので、これに対する対

応を年次的に行なっていきます。

また、6年生までの受入を速やかに年次的に行っていきたいと思っています。そのためにはプレハブや学校の余裕教室で対応ということでしたが、それだけに限らず、民間の施設の借り上げなども含めて促進できるようなやりかたも考えています。

最後に、乳幼児医療費の助成です。今、入学前まで市が負担させてもらっていますが、それを来年4月から、まず入院について6年生まで負担すると決めております。年次的に、通院についても6年生までの拡大を順次していくつもりでいます。拡大の是非については市の財政と相談をしていかないといけませんが、大きくはこのような政策をとっていきたいと思っています。時間も限られておりますが、皆さんからのいろいろなご意見をお伺いしたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

＝意見交換＝

《参加者》 総社市は、乳幼児医療費の無料化が小学校まで拡大されている。小学校に上がると経済的な負担も増え、体調をかなり崩してから病院へやってくるということも聞くので、無料の対象を通院費まで拡大していただきたい。

《市長》 総社では6年生までの乳幼児医療費の無料化が進んでいます。どこまで拡大していいのかということは、財政状況の相談とその市がどこに力を入れていくかということだと思います。

今回、私が子育て支援に力を入れたいと思っているひとつ大きな理由は、若い方たちが、どこに家を構えたいかと思ったとき、「子育て支援がどれだけ充実しているか」ということが大きなポイントではないかと考えたからです。そのひとつが乳幼児医療費のことだと思います。ただ、乳幼児医療費の無料化には、10億円近くのお金がかかりますので、それを2年ごと、3年ごとの段階で上げるのか、例えば所得が一定以上の方は、そのあたりで少し市の負担を軽くして導入を早くするのか検討をしています。

また、無料化ということで気軽に病院に行っていただくことは出来ますが、見込んでいたよりもお金がかなりかかってしまうかもしれないので、まず、来年から入院費を6年生まで無料にし、これまでと比べてどれくらい医療費が上がるのかを見て、次の年以降順番にやっていきたいと思っています。

《参加者》 ○親の医療費も大変かかるので、例えば、低額の所得の家庭には親の医療費もいくらか免除するというようなことが出来ないか。

○夫婦で取れる子育て休暇のようなものを考えて、親子でふれあえる時間をとりやすくしてはどうか。

○放課後児童クラブの6年生までの受入れ場所の確保を至急に検討していただきたい。

○放課後子どもプランの放課後子ども教室は、国から降りてきたばかりで市としての方針がまだないようなので、もう少し現場に近い形でやってもらいたい。

《市長》 市のいろいろなお金が必要な中でどこの支援をより手厚くしていくかということですが、医療費については、今の国の医療費の制度のもの以上に独自で厚くするというのは難しい状況にあります。そんな中で、市の中で話になっているのは、県が来年3月で止めることになっている重度の心身障害を持っていらっしゃる方たちに関する医療費を、激変緩和できないかということ。そういう部分については市としても何らかの支援をしたいと思いますが、一律の部分について親の医療費の部分にお金を回して優遇・支援をするのは今のところ難しい状況にあると思っています。

育児休暇、子育て休暇は前よりも取りやすい環境になってきていると思います。ただ、回りに気兼ねして取りにくいということを伺うことがあるので、例えば、「この会社は子育て支援、育児休暇、子育て休暇などを取ることを支援しています」というような制度を導入されている会社、「子育てに力を入れている会社」という告知を市のほうでも少しお手伝いでき出来ないものだろうかと思っています。もし何かアイデアがあったら教えていただきたいと思います。

児童クラブと放課後子ども教室についてはご指摘のように今のところ難航していると思います。厚生労働省が持っている制度と文部科学省がもっている制度であり、倉敷市では、かたや「児童クラブ」、かたや「いきいき支援の推進事業」としてやっていたわけです。それをもっと近づけられないかと思っていますが、すべての子どもさんが対象になるものと、親御さんが働いている場合が対象となるものとあって、それを融合することは非常に大きな課題だと思っています。今、教育委員会の方でも、いきいき子ども支援の方をもっと拡大できないかと検討していただいています。が、これまでの経緯もあって難しいところにあると思います。

《参加者》 ○最近マスコミで報道されたが、妊産婦さんが病院をたらい回しにされて亡くなったことは非常に不幸なこと。倉敷はそんなことは無いと思うが、市の方から各病院に対して、そのようなことのないように通達をしているのか、していないようだったらしていただきたい。

○NHKの「クローズアップ現代」で、経費節減のために、正規の先生を少し減らして、採用試験には合格していない教職免許を持っている非正規の先生を細切れに使う、ただお金を節約するというだけのためにそういうことをするのはおかしいのではないかなというように提議されていた。そういうところが全国にはか

なり多いと聞いているが、倉敷市ではどうなのか。

- 「保育園ママのお助けガイド」の著者白石真澄さんという女性は、自分の子どもを産んだときに、色々出来ないことを周りの人に助けてもらったと言っている。若いお母さん方は、トラブルがあったらどうしたらいいのか非常に不安に考えているので、何か対策があれば病院や学校などにご指導いただきたい。

《市長》 「たらいまわし」の件は倉敷市内ではそういうことはないと思っています。今のところ通達は出していませんが、医療機関のほうに再確認、注意喚起はさせていただきたいと思います。特に産婦人科の場合は、児島市民病院が非常に危機的な状況になっています。児島市民病院の医師が今のような状態になってしまったことで、例えば、児島から倉敷や水島の病院に搬送され、倉敷や水島の緊急の患者さんの対応数が多くなります。倉敷市の医療体制を元に戻すために、児島市民病院の医師の確保を一生懸命やっています。

基本的には学校の先生方の派遣については県に言って、正規の先生に来ていただけるように、産休のときには非常勤、代替の職員の先生を充てていただくということにはなっています。担任の先生については細切れになっているということはないと思っています。支援員の先生については非正規なので一年中必ず同じかたということにはなっていないだろうと思います。いい先生には長くいていただきたいというのがあと思っています。特に小学校など対応する先生があまり変わるのはいくはないかと思うので、なるべく同じ先生に一定の期間来ていただけるようにと思っています。

《参加者》○保育料は、3人が一緒に入ると、2人目は半額、3人目は無料になるが、子どもの年齢が離れていて保育園に入っているのが一人だと保育料が常に満額になります。年が離れているばかりに子どもが多くても常に満額というのに不公平を感じている。

- 子どもだけで外に出て行くのは危ないと言われるので、公園で友達と遊ぶにしても送り迎えが必要だとか、公園にいる間もずっと親がついてないといけない状態になっている。放課後こども教室のようなものが早く充実してほしいし、遠くに行くようになると親も心配なので、公園も増やしてほしい。

《市長》 保育料について、そのようなご要望がだんだん増えてきていると思います。子育てに関することについて、例えば、医療費、もしくは保育料など、どれを順番に予算を充てていくかということ、私は、まず、医療費が先だと思います。保育料が子どもさんの年齢によって違っているのは、今後検討していきたいと思っています。

放課後子ども教室については今6箇所ですが、土・日だけでなく平日の子どもさんの居場所ということで大切なことだと思いますので、今後拡大する方向でよく相談していきたいと思います。

- 《参加者》
- 放課後こども教室には愛育委員として協力をさせてもらっている。子供たちが一斉下校できるにもかかわらず、放課後こども教室をすると帰宅時間がばらばらになってしまうという大きな問題点があり、民生委員さんたちの協力がなかなか得られない。
 - 月2回だけ学校へ手伝いに行けるよう、会社に休みを取らせてもらっているが、市長が言われた認定マークなどをもらえたら会社側もそういった事情をわかってくれて、休みなど少しでも配慮してもらえるとと思う。
 - 水島にはたくさん大きな総合病院があって、その病院に勤めている看護師さんたちが子どもさんを連れて来られる保育園が必要だが、水島幼稚園が今年度で廃園になることもあり、保育園がマンモス化状態となっている。この地域に働きにきているお母さんたちが、安心して預けられる場所というのが必要だと思う。
 - 障害のあるお子さんのいらっしゃるかたが総社のほうが暮らしやすいと転居された。総社のほうが障害者に対しても優しいまちになっていて、だんだん人が総社に流れているのではないかと思う。岡山がライバルということだが、倉敷と総社と力をあわせて岡山に勝る地域にしていきたい。

《市長》 確かに総社のほうが乳幼児医療費の無料化の年数を上げるのが早かったが、障害を持たれている子どもさんに対する医療が総社のほうが手厚いということではないと思います。医療費全般のことについてですので、倉敷もあと2・3年ぐらいの間には追いつきたいと思います。

放課後子ども教室については、ボランティアのかたの今後の確保、例えば、団塊の世代で退職をされる皆さん、もしくは、おじいちゃん、おばあちゃんちょっと手伝ってもいいかなと思ってくださるような、人生の先輩パワーをもっと子どもさんの支援のほうに活用できないかなと考えています。

水島の幼稚園のことについては、来年の3月で統廃合ということになっていますが、保育園のマンモス化について、局長の方から。

《保健福祉局長》 倉敷地区の待機児童は倉敷とか茶屋町地区に多いので、大高・葦高地区に来年の秋には60人定員の民間の保育所が開設します。これが出来れば水島地域の今の飽和状態が幾分緩和するのではないかと思います。

《市 長》 どこにつくるかと考える時に、どこまで通って預けているかということもお聞きしています。今回大高、今後茶屋町に開園すれば少し分散をしていただけるのではないかと考えていますが、水島の状況についてもよく拝見するようにしたいと思います。

《参加者》 ○高齢者の方たちのパワーを子育て支援のほうに活かしたいと、たんぼぼの里を立ち上げ、団塊の世代の人たちに呼びかけたりして何とか支援をしていきたいと思っているが、サポーターの人にはお金が出てもコーディネートする側はボランティアで運営していて年々厳しくなっており、そういうところで活動していこうという団体等に、資金面だけでなく広報などいろいろな面で応援していただけないか。

《市 長》 高齢者パワーを子育てに活かすことは、これから非常に重要になってくると思います。倉敷市でもシルバー人材センターがありますが、その方たちのされている仕事もこれからもっと幅広くなっていくべきじゃないかなと思います。これまでは主に庭木の剪定や家事の手伝いとかが多いようですが、例えば子育ての手伝いや、これまでの技能を活かして会社を立ち上げる、そういうことにもっと力を入れていくような仕組みが必要だと思います。まだ、計画を作っていくところなのでどういう形の支援ということにはなりませんが、がんばりたいと思います。

《参加者》 ○子育てサポーター講座をコーディネートさせていただいたが、若い人たちにもこういう講座を受けていただきたいし、年配のかたにも、今の現状をしっかり勉強して子育てにかかわっていただきたいと思う。

《市 長》 子どもと向き合うにあたっての講座などを受講してもらった人が、より多いほうが良いということですね。

《参加者》 ○子どもが小さいと外に出にくくなり、母親の多くが、閉塞感、社会と孤立してしまうと感じる。公共や民間のイベントは小学生対象のものが多く、もっと乳幼児、母子対象のイベントを増やしてほしい。岡山市妹尾の西ふれあいセンターには、継続的に3、4種類の託児付の講座がある。また、母子対象というふうに考えがちな乳幼児対象のイベントを、乳児検診のように、父子・父親に義務付けるような形であってもいいのでは。今、育児家事に協力してこなか

った団塊世代の父親を持った団塊ジュニアが多く、自分の父親のしてきた育児家事協力しかできない、というようなことも言われているので、父親に、家庭とどう接していくのかを伝授できるイベント、講座などがあればいいと思う。

○水島は空気が汚いので、空気をきれいにしていくように企業に訴えかけていたきたい。

《市長》 私ももっと乳幼児対象の政策をふやすべきだと思います。低年齢のときのお母さん達の繋がり、お母さんと子どもの繋がりと言うのが、それ以降の子どもさんの人格形成の観点で、年齢が小さいほど影響が大きいのではないかと思います。お母さんがずっと家にいて閉塞感でいらいらになっていると、それはそれで子どもさんに直接に影響が出るものだと思いますので、乳幼児対象のイベントについて数が少ないのであればもっと増やしたいと思いますし、ばらばらになっているのであればもっとわかりやすいような形にしたいと思います。岡山市の西ふれあいセンターで行っているものもよく調べてみようと思います。

父親の参加については、倉敷市では以前の母子手帳を親子手帳に変えることからはじめていますが、もっと父親の皆さんが参加をしていただけるよう、なにか義務付けることができないか、例えば、お父さんも参加してくれないと妊婦検診の補助券を出さないなどとか、何かをすることによって無料の券が獲得できるというのがいいのではないかといわれる方もおられます。今後、改善をする中で検討したいと思います。

空気が汚い、水島だけでなく倉敷市全般がそういうこともあると思います。工場に対してはしっかり指導いたします。

《参加者》 ○父親の参加は大事で、父親の参加なくして良い社会を築いていけないと思うが、例えばチボリ公園など非常に活用のしがいのある公園だが、無くなるのはとても残念。あれがなくなるというのは倉敷市民にとって本当に損失は大きいと思う。例えば福祉プラザは駐車場も狭く、父親が車で来て遊ばせるというものがもっとあっていいのではないかなと思う。日常的に父親が散歩できたり、ちょっと遊ばせることのできる図書館なども少なすぎる。これから知識基盤社会において、読解力などいろいろな意味で図書館は本当に大事で、学校とも連携しなければならないし、そういうネットワークの中に父親も参加することはキーワードになると思うので、そのあたりの整理の仕方をもう一度考えていたきたい。

○光熱水費に目を向けた場合、学校には削減できるチャンスがある。もう少し環境教育として、節水・節電などを心がければ、一校につきおそらく30パーセ

ントの削減が出来ると思うので、それを図書館や教育支援にまわせるようにする工夫の余地がある。

○倉敷市は英語特区になっているが、そのビジョンが見えてこない。例えば、NETに2億円の経費をかけて雇っても、ビジョンが見えてこないで辞めていく。小さい時期から育て、小学校6年生でどういう姿があるのかということを、3年先、5年先、10年先の短期、中期、長期のビジョンを持って示したらいと思う。学力テストの結果に一喜一憂するのではなく、子どもにお金をかけ、倉敷市で育った子が社会人になって、また倉敷に帰って来たい、成人したら倉敷をより良くしていこうという感じになればいいのでは。

《市長》 今後新しいものを造るについては太陽光発電などを取り入れたり、今あるものに徐々にこれらを入れていき、子どもさんの意識も上がりながら、学校のお金も助かるというような方向にしたいと思います。「晴れの国岡山」の特徴だと思うので絶対勧めるべきだと思います。

以前教育先進県だといわれていた岡山が、全国平均よりもかなり下になっているということに、私は非常に懸念をしています。倉敷市も同じような状況にあるということなので、せめて全国平均よりは上になるようにはがんばってもらいたいと教育委員会のほうに言っているところです。それには何が必要なのだろうかと学校の先生方も一生懸命考えてくださっていると思いますが、私は、勉強、学校が好きになるような環境づくりではないかと思います。図書館の本が面白いとか、先生がわかりやすいとか、学校に行く途中におじいちゃんおばあちゃんがいっぱいいて声をかけてくれるような環境とか、いろいろなことが絡まっているのではないかと思います。

英語特区については必ずしも成果が上がっているものではないと思います。小学校で2億円以上のお金をかけて、英語の授業を入れることによって、国語とか算数とか学力テストをしているような科目の準備の時間も減ったりするとやはり影響も出ているのではないかと思っていますが、ただそれだけでもないと思います。ビジョンというものがないと先生たちもやる気がなくなって離れてしまう方もいると思うので、倉敷ではこういう教育をしていきたい、倉敷で育ったらこういう子どもさんができることが期待されるというようなものをしっかり作っていききたいと思います。

福祉プラザの駐車場については、職員の駐車場などで対応し、少し拡張をする方向で検討しています。

《参加者》 ○一時保育に何度か預けたことがありますが、急病や急用の場合に満員だったり、

仕事じゃない方はよそで、というふうに断られたことがある。一時保育の園や定員をふやしていただきたい。

《市 長》 一時保育の園については、私も今後の課題だと思います。新しく保育園を二つの地区に作ることによって解消する部分もあるとは思いますが、それだけではないかもしれないので、よく対応について考えたいと思います。働いていないからといって必ずいつも子どもと一緒にいないといけないわけではなく、理想を言えば、買物に行くとか映画を見に行きたいから預けられるようなところがあればいいと思います。今後検討したいと思います。

《参加者》 ○インターネット上で水島のお母さんの会のサークルをやっているが、個人なもので、公民館は貸してくれない。公民館はいろいろなところにお母さんが集まりやすいのでインターネット上のサークルにもどんどん貸し出してほしい。
○聞いてくれたら説明をして取れるはずなのに、個人はだめだというのは対応が悪いのでは。
○4人以上と言われるが、私は3人でもサークルだが何とかならないか。
○部屋が空いている場合でも貸してもらえない。もうちょっと臨機応変に。

《市 長》 公民館については、たぶんインターネットのサークルで申し込んでいただければ大丈夫だと思います。

《教育次長》 サークルにはお貸ししているので、そのあたりの名前のつけ方とかいうことかなと思います。非常に申し込みの多い中で、基準を設けて、出来るだけ多くの人に施設を利用していただくということだと思いますが、空いている場合など検討の余地があると思います。

《市 長》 今のお話もよく伺いますので、よく検討をしましょう。

《参加者》 家のすぐ横の溝に蓋が閉まっておらず、子どもが小さく、溝が結構深いので、とても怖い。そういうところもいっぱいあると思うので蓋をしていただけるとありがたい。

《市 長》 一定の基準があつて溝に蓋をしています。たとえば逆に、蓋をすると掃除できなくなるので困るということもあります。倉敷は用水路等も含めて水路が多い町で

すので、なかなか全部に蓋をとというのは難しいのですが、ほんとうに危ないところについては、お話をいただいたら対応することができる場所があるかもしれませんので、支所に言っていただくようお願いします。

《参加者》 ○ライフパークで行っている子育て支援者養成講座を受け、倉敷市がやっているファミリーサポートの提供会員に登録している。提供会員がとても少なく、依頼会員のほうが多い状態。ファミリーサポートの活動を知らない人がほとんどだと思うので、もっと広報をして、役立ちたいと思っているお母さんがた、団塊の世代のかたに会員さんになっていただいたら、若いお母さんがたも助かるのではないかと思う。

○保育園は昼食とおやつがついて2千円で預けられるのに対して、ファミリーサポートは一時間が700円というのは若い世代にはハードルが高いのでは。登録場所についても、近くで登録を済ませたいというのもあると思う。利用者が働く人しかいないのはそういったこともあるのかと思う。

《市長》 ファミリーサポートについてはよく知ってもらおうという観点や、手伝ってくださる方の呼びかけについても、もっと拡大をするべきだと思います。しっかり検討したいと思います。

《参加者》 ○6月に市の学童保育連絡協議会が立ち上げられた。倉敷市が全国に先駆けて1年から6年までの学童保育の実施をうたっているのは大変うれしいが、昨年3月に市のほうから1.29という設置基準、子どもの受け入れ人数をいわれ、うちのクラブで計算してみると、現在78名の子どもがいるが、その空間に128人入れる計算になり、それをこどもの活動範囲内のスペースで割ってみると、こども一人当たりの居有面積が1を切るというような状況。一昼の間に子どもが3人か4人いるようなスペースでは預けられないというのが現場の声。設置基準をもうけていただくのはありがたいが、現場を見て実態に即したものでなければ預ける親は不安だ。学区によって預けられる時間、曜日が違う、定員が多いところになるとパートで早く帰るならとってこないなどの不安を保護者がもっていて、市の連絡協議会でもそういう問題が上がっているが、立ち上げたばかりで話し合いが出来ていない。市長に会議や総会等に参加していただきたいという声が上がっているので、ぜひお願いしたい。

○倉敷市の保育園はなかなか募集がなく、11ヶ月間という登録制度で働いている先生のほうが多いので、先生が途中で変わることがある。こどもたちにとっ

て、年度途中で先生が変わるようなことは、かなりストレスになると思うので、正規の保育士さんを民間のようにしっかり雇っていただきたい。

○わが子は英語の授業が楽しくて一週間に一回しかないのがいやだと言っている。ビジョンが見えないからという問題が大人の中にはあるかと思うが、子どもの目で見ると楽しいし、初期の段階としてふれあうのはいいことだと思うので続けていただきたい。

《市 長》 児童クラブ連絡協議会の市全体の会議では、各クラブごとのいろいろなご意見が出てくると思います。特に面積など、新しく6年生までに拡大していくときに少なくとも今よりはいい環境になるように出来ないかという観点で検討していきたいと思っています。分ければ、今よりは少し解消するとは思いますが、特に6年生まで何でも預かればいいというものではないということはよく承知をしています。連絡協議会から直接お話を伺ったり、児童クラブに行かせていただいて、実際のことを拝見させていただくようにしたいと思っています。

確かに正規の保育士の求人が少ないというのはあると思います。保育士さんだけでなく市職員の全体の求人も少なくなっていてその煽りも受けているのではないかと思います。計画を定期的に見直しする中で、今いただいたお話をよく考え、年の途中で先生が変わるようなことはないようにしたいと思っています。

＝市長あいさつ＝

いろいろな実際のお声を聞かせていただき、今後どういうことに力を入れていくべきかということについて、道筋が見えてきたような気がします。これからも一生懸命がんばりますので、いろいろなことを教えていただきますようよろしくお願いします。本日はありがとうございました。